

キャラクター紹介

【 ヒルダ 闇の中…】のヒロイン

名前：ヒルディガルド・リルケ

年齢：言わぬが花（詳しい年齢を書くと、最近は色々と差障りがあるので察してくれ！ と言う年齢だと思ってください）

誕生日：20××年3月1日（ただし出生届が出た時の書類による）

【本来は閏年の2月29日に生まれたのだが、今後の事を考えて両親は、誕生日をずらして出生届を出した】

日本に帰化した東欧の小国である「ケルンテン共和国」生まれの父親と日本人の母親（ただし母親もフィンランド人と日本人のハーフ）を持つハーフの少女
金髪碧眼鏡カクレメソバカスの少女、父親の仕事の都合で外国暮らしが長かったが、数年前に日本に両親共々戻ってきていた。

（出生届は日本で出されており、国籍的には日本人である）

日本語は、しゃべる事も読む事も流暢で堪能だが、性格的に人見知り激しく、また外国人然とした外見もあってか、知らない人や初見の人に対しては、おどおどしたと言うか臆病な印象を与える。

（ただし懐いた相手、気を許した相手に対しては、流暢な会話をしており、実際の所はかなりおしゃべりで明るい性格+甘えたがり屋な部分を持っている）

趣味は読書と日向ぼっこ、公園のお気に入りのベンチに座って本を読んでいる内に眠り込んでしまう事もあったりする。

身体的にはやや病弱な面があり、常用している薬が何種類かある。

ただし普通に生活をする分には差障りがないレベルなのだが、精神的にもろい部分があり、心配事や不安な事があると、それが原因となって体調を崩してしまう事も多々ある。

そのせいもあってか日本に来た当初は、生活環境の変化や周囲に両親の他に知り合いが誰も居なと言う状態、そして髪や瞳の色等と言った外見的な容姿が、周囲の人達と違っているという事に対して疎外感を持ち、軽度の鬱状態になってしまっていた。

そのことを心配した母親が親戚（母親の従兄弟にあたる）である青年に引き合わせた。

その青年との出会いによって、精神的な不安や疎外感は癒される事となり、それとともに周囲の他の人達との交流もし始める様になり、彼女本来の明るさを取り戻し始める事となった。

（ただし青年に対する精神的な依存度が高くなりすぎて、一時期その青年との距離が離れ

た時には、その不安感から体調を壊す事となり入院する事態になってしまった)

現在、その青年に対する淡い恋心を持っているが、まだまだ夢見るような感じの恋愛観であり『白馬の王子様』症候群……と言った感じで、本格的な恋愛感情は……まだまだと言った感じである。

そんな、お兄ちゃんと呼ぶ青年と一緒に過ごす夏祭りの夜……彼女は最悪の夜を迎える事となった……

